


いな 稲むらの火 ひ



『稲むらの火』(劇づくり)

国語の時間に、昔の教科書を閲覧し登場人物のセリフを考えて劇を作りました。登場人物のきもや、見ている人に伝わりやすくするためのうごとも、自分たちで考えました。


特別活動の時間に、劇の場面をイメージして背景画を描きました。

友達と協力して、小道具づくりにもしどりくみ、

「地震や」寺の鐘の音など、効果音も考えました。


まのくに和歌山総文二〇二二 特別支援学校部門のステージで私たちの劇を頒布しました。

『稲むらの火』からの



学び

和歌山県立ちはなま支援学校
高等部三年 生活コース



高き五メートル、幅二十メートル、長さ六百メートルの防波堤は、広村が津波におそわれてから、四年後に完成した。

八十八年後に昭和の南海地震が起き、また津波が広村をおそったが、防波堤は心づくとその役目は果たした。

「五十年後も 百年後も 村をさす」という橋陵の夢ははたされた。

参考文献 『稲むらの火』小島園児 著、五十 文芸春秋、昭和二十二年
『稲むらの火』小島園児 著、五十 文芸春秋、昭和二十二年
『稲むらの火』小島園児 著、五十 文芸春秋、昭和二十二年



江戸時代のお話

紀州和歌山藩に 広村という 小さな村があった

この村に 濱口橋陵という 長者さまが住んでいた

「これは・・・地震だ 地震だ」

長くゆったりとしたゆれ方とうなるような地震りは いままで経験したことのない 不気味なものであった


みんなて 避難をせよ

逃ぐくまらな



チャレンジタイム 防災講座② 「廣八幡宮」避難施設見学

防災講座では、「稲むらの火の物語」に 関係の深い 広八幡宮で、避難施設の見学もしました。避難施設を管理している廣川町役場の方が、防災グッズを、丁寧に紹介してくださいました。災害時に活用できる太陽光パネルつきの蓄電池や、手触りも熱くない照明が驚きました。非常用の簡易トイレが、できあがるようすを、近くで見せていただき、緊急の避難生活をイメージして、困ったことや必要なものについて考えました。避難部屋に備えられている、災害用マットや水を広げて実際に寝る体験もしました。



広村堤防清掃活動

橋陵さんと広村の人々の、防災への思いがもたらした 広村堤防

毎年秋に、生徒会活動の中で、整備部が中心となって 広村堤防清掃を企画し、高等部全員で、清掃活動にとりかかっています。

拾った落ち葉や空き缶などのゴミを分別し、学校へもかえります。

みんなて 協力して、大切な広村堤防を、きれいにする活動です。

パンフレットの1部分を掲載しています。